

# 都市農業振興に関するアンケート調査の 結果概要（都市住民）

平成 28 年 8 月

兵庫県総合農政課

# 1 調査の概要

## (1) 調査対象

市街化区域内にある直売所の来訪者計 331 名

## (2) 調査方法

調査票を来訪者に直接配布、回収

## (3) 調査実施日

平成 28 年 6 月 11 日 (土)、15 日 (水)、19 日 (日)



表 1 調査実施店舗

地域	店舗名称
神戸・阪神地域	ナナファーム (神戸市須磨区)
	ファーマーズマーケット スマイル阪神 (伊丹市)
	イズミヤ西宮ガーデンズ店内インショップ (西宮市)
東播磨地域	ふぁーみんSHOP 魚住店 (明石市)
その他地域	旬彩蔵 飾磨店 (姫路市)

表 2 調査対象者の居住地

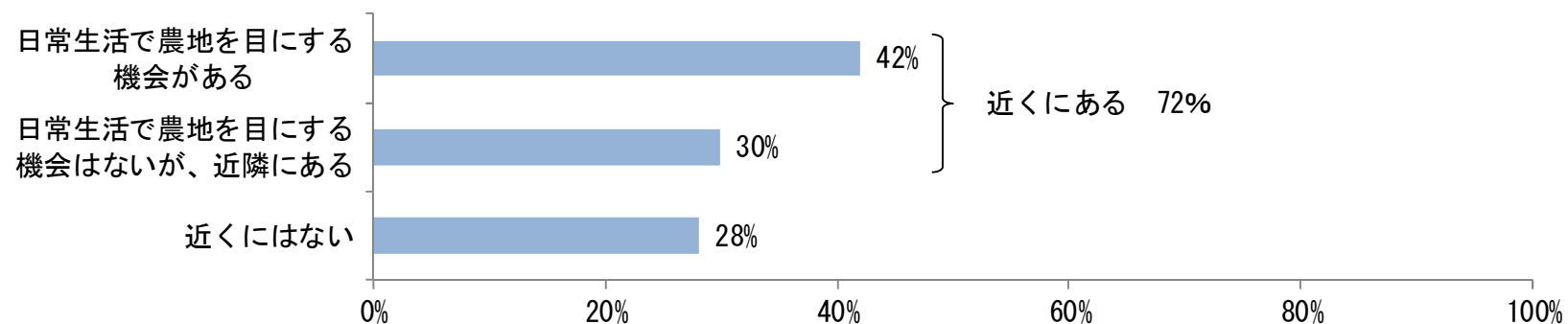
居住地		回答数
三大都市圏 特定市	神戸市	70
	尼崎市	14
	西宮市	64
	伊丹市	25
	宝塚市	6
	川西市	6
地方都市	明石市	67
	加古川市	1
	姫路市	63
	たつの市	1
その他 (県外)		14
合計		331

## 2-1 都市農地保全についての考え

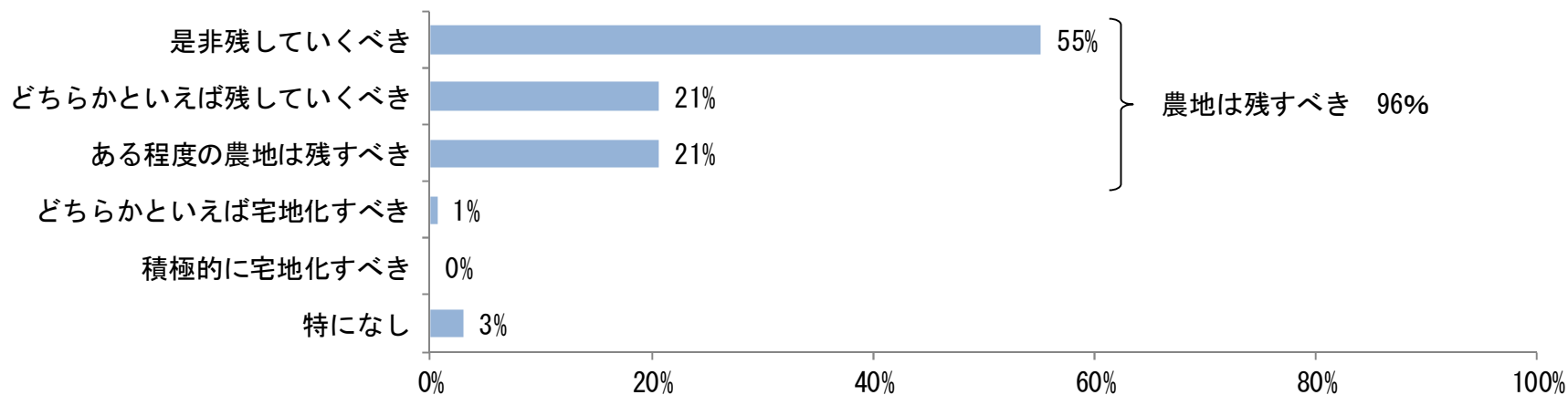
(1) 約7割の住民が、日常的に農地を目にする、もしくは、近隣にあると回答。

(2) 市街地にある農地については、9割を超える住民が「残すべき」と回答。

### (1) 日常生活における農地との距離



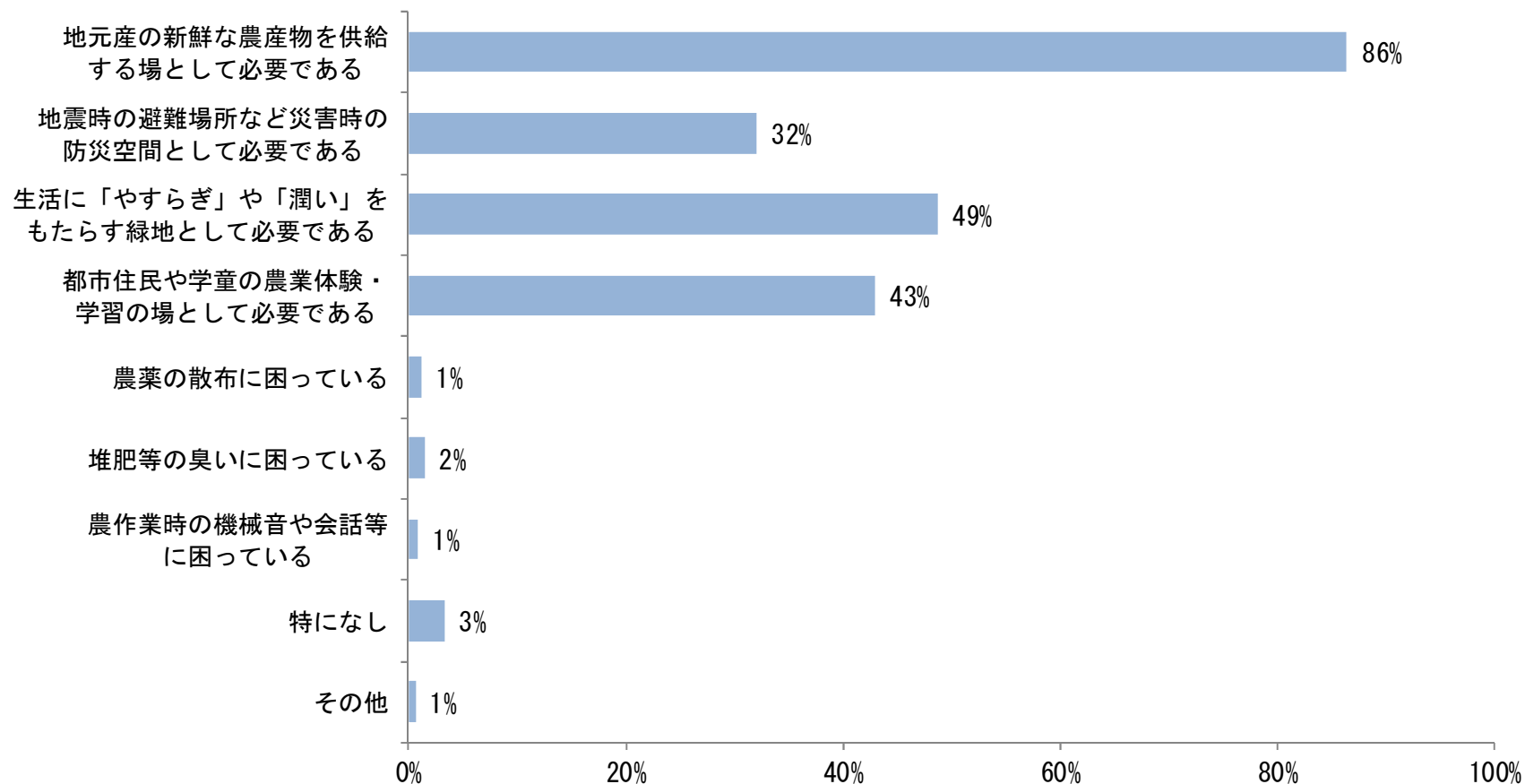
### (2) 市街地にある農地に対する考え



## 2-2 都市農業についての考え

(3) 都市農業に対する考えとしては、新鮮な農産物の供給の場として必要とする意見がもっとも多く、約9割が選択。  
その他、生活にやすらぎをもたらす緑地空間として、また、農業体験・学習の場として必要など、肯定的な意見が多数を占め、農薬の散布や堆肥の臭いに困っているといった否定的な意見は少数であった。

### (3) 市街地で行われている農業に対する考え（複数回答）

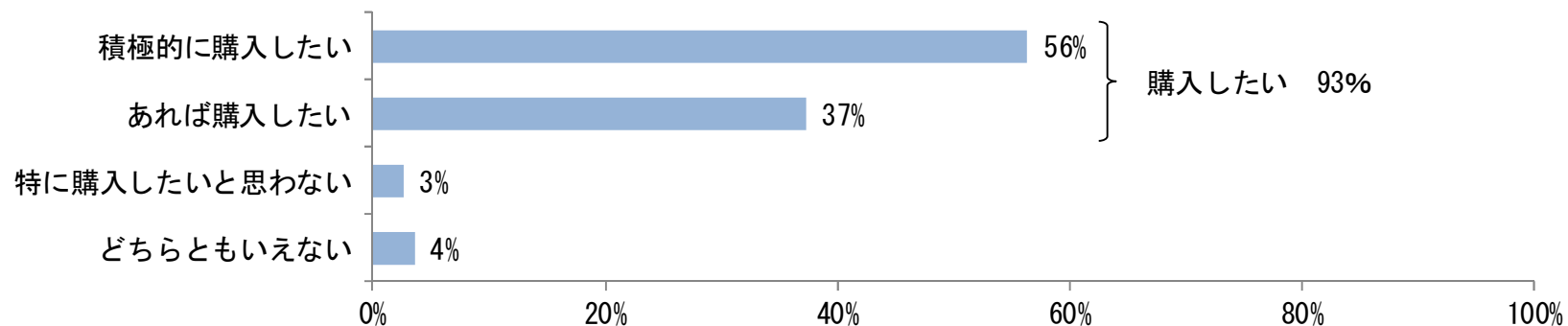


## 2-3 生産される農産物について

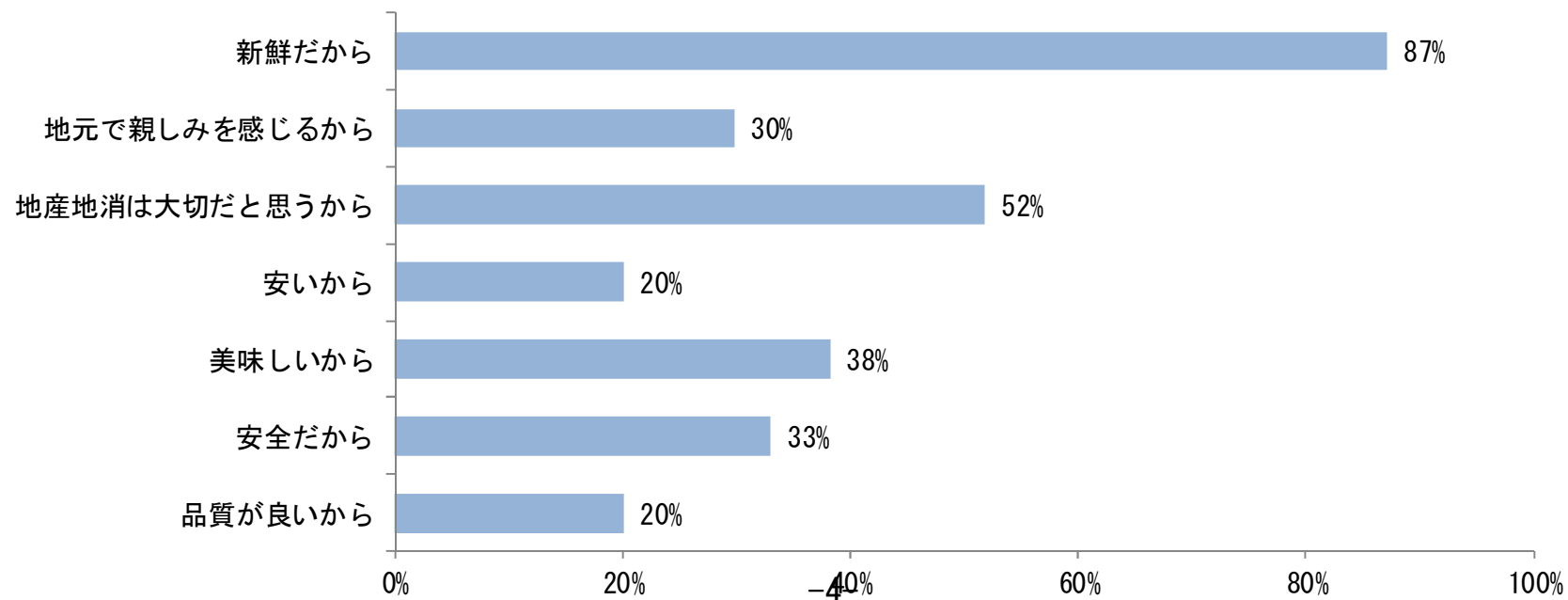
(4) 市街地で生産される農産物について、9割を超える住民が購入したいと回答。

(5) その理由としては、新鮮だからとの回答が約9割と最も多かった。次いで、地産地消が大切だからとの回答が約5割あった。

### (4) 市街地で生産される農産物について



### (5) 「購入したい」と回答した理由

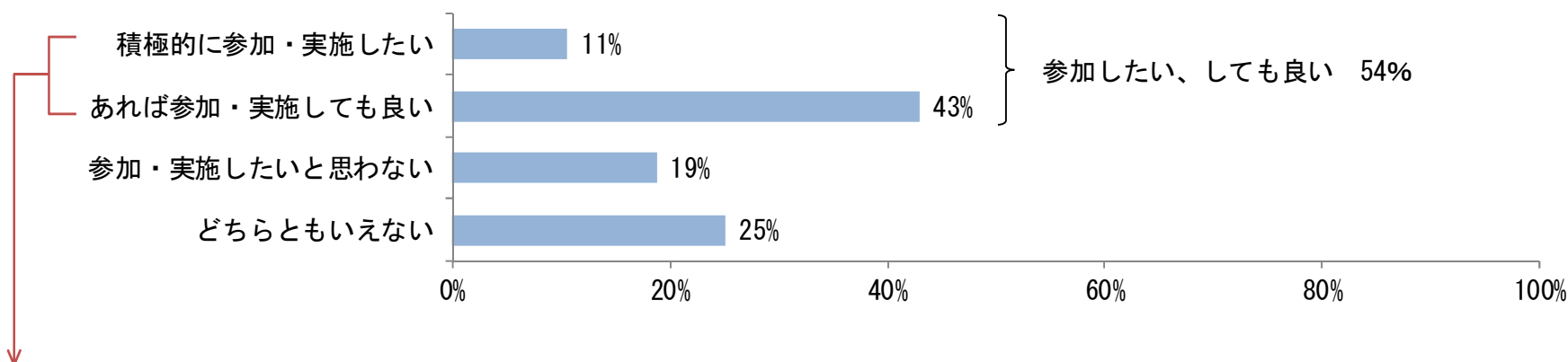


## 2-4 都市部での農作業体験機会について

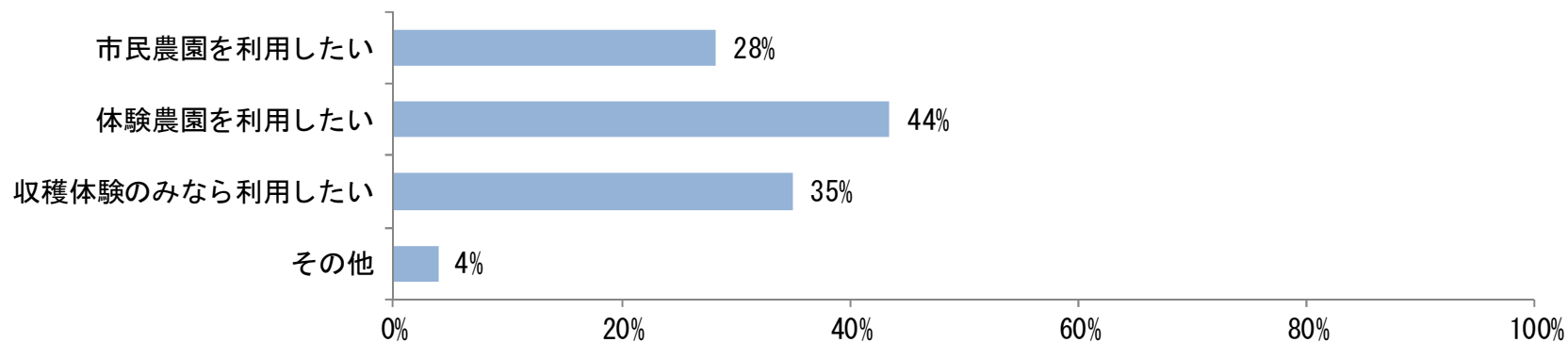
(6) 農作業体験機会については、半数以上が、参加したい、しても良いと回答。

(7) 体験したい内容としては、体験農園が約4割と最も多く、収穫体験、市民農園と続いた。

### (6) 市街地にある農地を活用した農作業体験機会について



### (7) 体験したい内容



※ 市民農園：農地を借りて、全て自分で栽培

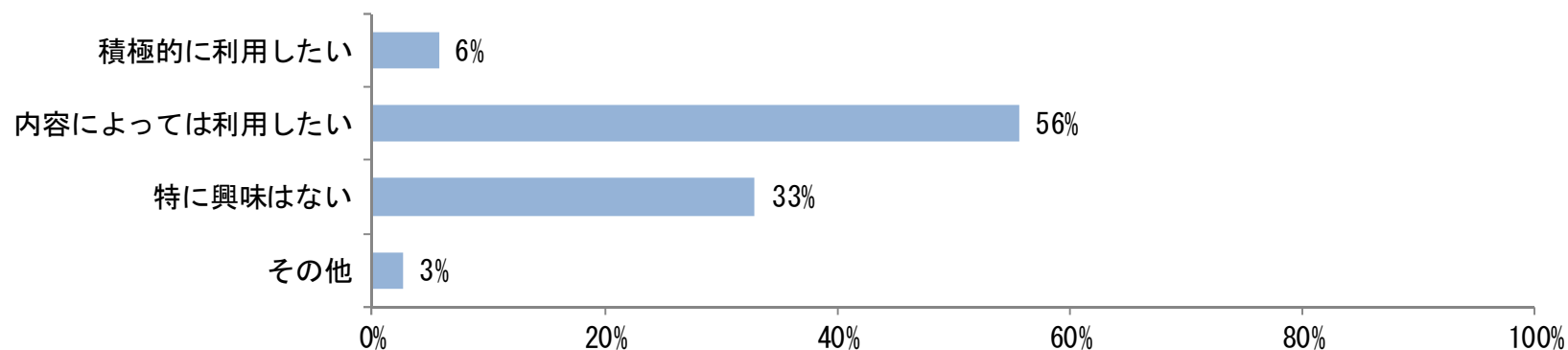
体験農園：農業者の指導のもと、決められた農産物の栽培、収穫

## 2-5 都市農業に関する学習機会について

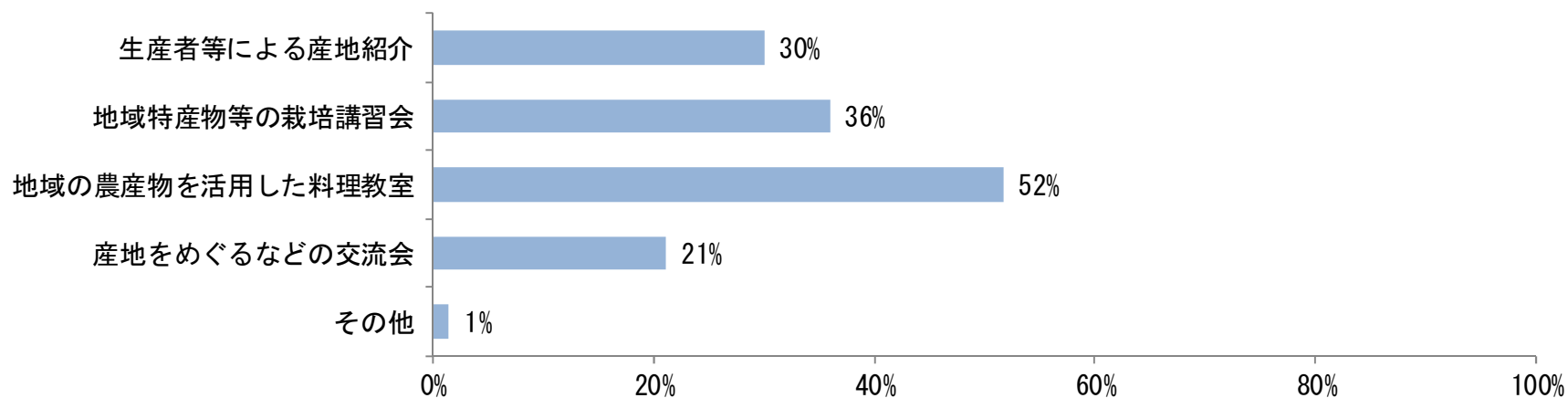
(8) 都市農業に関する学習機会について、積極的に利用したいとする回答は少なかったが、内容によっては利用したいとの回答が約6割あった。

(9) 利用したい内容としては、地域の農産物を活用した料理教室が最も多く、次いで栽培講習会、生産者による産地紹介が続いた。

### (8) 市街地にある農業に関する学習機会について



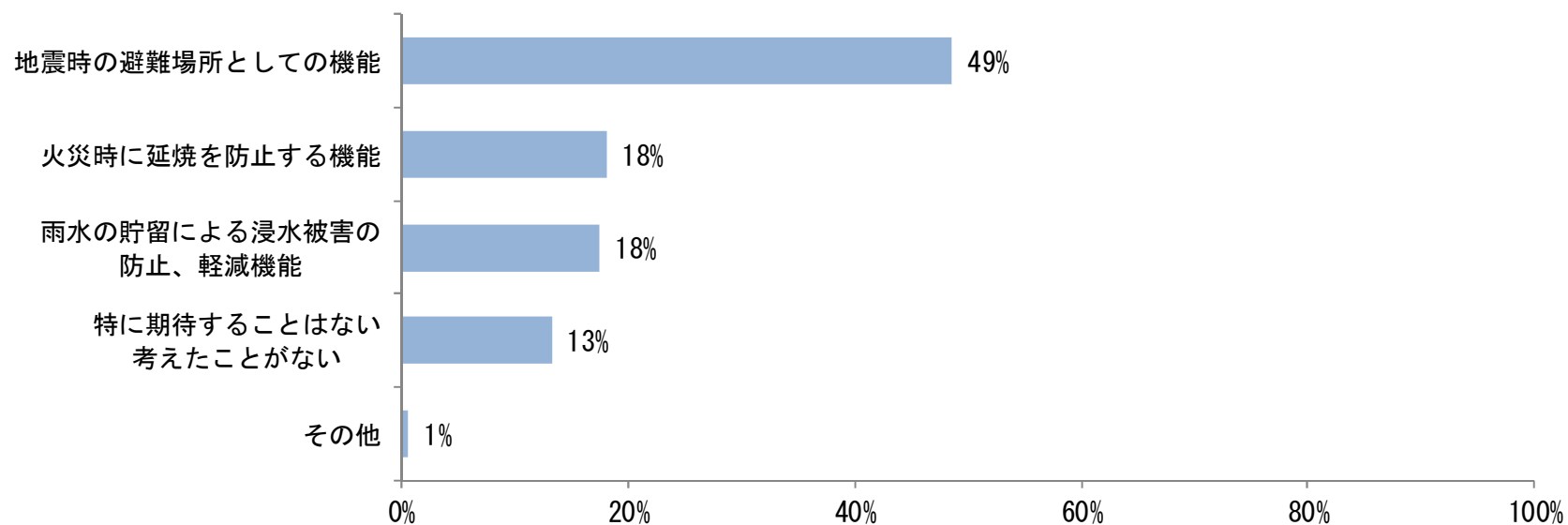
### (9) 利用したい内容（複数回答）



## 2-6 都市農業に期待する防災機能について

(10) 都市農業に期待する防災機能として、約半数の住民が、地震時等の避難場所を挙げた。そのほか、延焼防止や雨水貯留機能との回答が約2割あった。

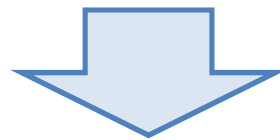
### (10) 期待する防災機能について（複数回答）





### 3 まとめ

- ・ 都市住民にとっても農地は身近な存在であり、新鮮な農産物を供給する機能以外にも、生活にやすらぎをもたらす緑地空間としての機能や、農業体験や学習の場としての機能、防災空間としての機能などを評価しており、多くの住民が農地を残すべきと考えている。
- ・ 市街地にある農地を活用した農作業体験について、約半数が、参加しても良いと考えており、その内容としては、体験農園や収穫体験など、初心者でも取り組みやすい内容の割合が高かった。
- ・ 都市農業に関する学習機会については、約半数が、内容によっては利用したいと考えており、その内容としては、地域の農産物を利用した料理教室や栽培講習会など、体験型学習の割合が高かった。
- ・ 期待する防災機能としては、地震時の避難場所との回答が最も多かった。火災時の延焼防止や浸水被害の防止といった回答は比較的少なく、アンケートの選択肢として示されることで、初めて認識される住民の方も多かった。



- 食や農への関心の高まりのもと、身近な場所で営まれる都市農業に対して、新鮮で安全な農産物の供給の場として以外にも、やすらぎをもたらす空間としての機能や、農業体験・学習の場としての機能など、都市農業が持つ多様な機能が評価され、その必要性が強く認識されていることが示唆された。
- また、新鮮で安全な農産物を消費するだけでなく、農作業体験や地元産農産物を使用した料理教室など、経験や体験を通じ、農業に関わりたいというニーズが都市住民のなかに根付いてきていることが伺われる。
- 都市農業が持つ多様な機能、特に防災機能については、十分な理解が得られているとは言えず、今後さらに意識啓発を図ることで、都市農業への関心、評価は一層高まっていくと考えられる。